

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	江別ケアパーク そよ風 しらかば	評価実施年月日	平成21年11月20日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成21年12月5日

北海道

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	会社独自の基本理念、介護サービスの基本方針、品質方針に基づき、入居者様が、その人らしい生活を過ごして頂ける様に、支援、援助を心がける様にしている。		
2 ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	グループホーム玄関前に掲示をしている。朝礼時などに出勤職員で復唱する等をし、日々、会社の基本理念、品質方針を念頭に置き、実践するように入居者様と関わる様に努力をしている。	○	理念を念頭に置いて、日々取り組んではいるが、実践するまでには時間がかかるため、ユニット会議等で理念についての話をしている。また、理念を理解出来ていない職員がいるため、個別に説明をしていきたい。
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	グループホームの玄関入口に掲示しており、入居時には本人、家族への説明を行っている。		
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	近隣住民の方々には、積極的に挨拶は行っているが、日常的な付き合いまでは、行っていない。	○	地域の住民の方に気軽に遊びに来て頂ける様に声をかける。また、行事の際には、案内状をお持ちして、出席して頂ける様にお誘いをする。
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の行事を見学させて頂いたり、参加をしたりしている。施設の行事等に招待状を送ったりし、参加して頂いている。	○	町内会の行事には参加しているが、その他、老人クラブなどへの参加も出来る様にしていきたい。グループホームの行事の参加なども呼びかけしていきたい。
6 ○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域の方に向けた、介護の勉強会、施設の見学会を行い、地域の中における事業所としての役割について、話し合い、取り組んでいる。グループホーム見学者が来られた際には、わかりやすく説明を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>運営者、管理者は自己評価、外部評価の意義を理解しているが、職員に関しては、実施する意義を十分に理解しているとは、言えない。</p>	<p>○</p> <p>自己評価、外部評価の意義を説明しているが、理解を得るまでには、時間がかかるが、ユニット会議等で説明を繰り返し行っていきたい。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>定期的に行い、入居者様の様子について報告を行い、家族、地域住民の方から出た、意見、質問の意味をしっかりと考え、サービス向上に向けて取り組んでいる。また、毎月の行事や活動の報告を行っている。</p>	<p>○</p> <p>定期的に行っている運営推進会議の場を通し、更に家族、地域の方と密な関係を保ち、意見等を大切に、サービス向上に努めていきたい。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>手続きや申請に疑問、困った事がある時には、直接電話をしたり、市役所に行ったりして、指導、助言を頂いている。</p>	
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>管理者が研修会に参加し、職員へ報告している。今後は、必要な利用者には、支援を行ってきたい。</p>	<p>○</p> <p>話し合いや説明は行ってはいるが、理解していない職員が多く、個別に説明を行ってきたい。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過されることがないよう注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>管理者、職員は外部研修、内部研修などを受講している。また、ユニット会議の際、虐待について話し合いを持ち、職員一人一人が考える機会をもち、そのような事が無い様に自覚を持ちながら業務を行っている。また、言葉の虐待についても、職員間で確認を行いながら、注意している。</p>	
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時には、十分な説明を行い、不安、疑問点を解消し、理解、納得を得てから、契約をしている。また、その都度疑問、不安点などには返答をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>13 ○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営推進会議、日々の生活において、入居者様からの意見、苦情の対応は行っているが、現時点では、意見、苦情が出ていない。</p>	○	<p>入居者様の表情や言葉、態度から、その方が望んでいる事を見極め、意見、不満、苦情が表せるように心がけていく必要がある。また、家族との情報交換を大切にしていきたい。</p>
<p>14 ○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>定期的に通信を発行し、ユニット内の外出行事等の様子を写真や文章で記載し、金銭管理についての報告を書面にて郵送で家族に送付している。また、必要時には、電話や面会の時に入居者様の様子を伝えている。</p>		
<p>15 ○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>面会時、運営推進会議などで意見、要望、苦情、不満があれば、その都度言ってもらえる様に努めている。また、外部の苦情、相談機関を入居時に口頭と文章で説明している。また、グループホーム玄関にも掲示している。意見、要望、苦情に関して速やかに反映するように努めている。</p>		
<p>16 ○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>定期的なユニット会議の実施を行っている。また、緊急でのユニット会議を行い、職員の意見を聞く機会を設け、意見や提案を反映させている。職員間での連絡ノートを活用しているが、十分な活用までには至っていない。</p>	○	<p>更に職員意識を統一させていく必要がある。また、連絡ノートの活用の仕方についても、統一させていきたい。</p>
<p>17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>ユニット内での外出時、行事等の時には職員の人数を確保している。入居者様の生活時間に合わせて早番、日勤、遅番のローテーションを組んでいる。</p>		
<p>18 ○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>職員の異動、離職を極力少なくし、働きやすい環境作りを行うことにより、入居者様に不安を与えず、安心して頂き、精神的、身体的ダメージを少なく出来る様に心がけている。</p>	○	<p>安心して暮らして頂くために、馴染みの職員で支える体制をとっている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>必要に応じた、新人職員研修、資料を作成しながらトレーニングを行っている。経験などを踏まえて、段階を組み、育成のプログラムを行っている。</p>	○	まだ一部の職員しか研修会の参加が出来ていないが、今後、積極的な参加を行う予定である。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>外部の見学の受け入れを積極的に行っている。また、協議会の研修にも参加し、他の市町村との交流を図っている。</p>	○	管理者だけではなく、職員が、交流会にも参加していける様にしたい。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>定期的な面談の実施を行い、ユニット内での困っている事や個人的に困っている事等を聞き、ストレスの軽減に取り組んでいる。また、職員間では、入居者様、業務に関しての話し合いを良く行っている。</p>	○	管理者が職員の話しを聞き、ストレスの把握に努めている。
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>職員の努力、勤務状況を把握し、職員は向上心を持って、働いている。</p>		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>認知症であれば、基本的に受け入れる方針である。事前に要介護認定の確認を行い、家族、本人との面談を行い、十分に検討している。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>見学时、入居相談時、契約時に家族などが、グループホームに対して、求めている事、不安な事を確認し、納得が得られるまで話し合いを行い、同意を得ている。また、入居後も相談があれば、随時、受け入れている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談に応じた対応を行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前に見学をして頂いたりしている。入居前には、本人の状況を家族から詳しく聞き取り、職員が情報の共有して、入居後の対応を行っている。	○	本人が納得しての入居は難しいが、精神的、身体的に不安がない様に配慮をしていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	入居者様の日々の生活の中から喜怒哀楽を共感し、支えあう事を大切に接するようになっている。また、調理、後片付け、掃除、洗濯などの出来る事は職員と一緒にやっている。	○	一部、理解出来ていない職員がいるため、今後、十分な関係作りを行っていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族の方が、何でも言える様な雰囲気を作る様に心がけており、入居者様の面会時には、近況を報告し、情報の交換に努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家族が面会に来られた時等、本人の日常の様子、体調面等を報告し、双方の思いを聞き入れ、良い方向になる様、家族と話し合いに努めている。電話での対応も行う時がある。 月1回のユニット通信を送付している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	親友、友人の方々が面会に来てくれている。 馴染みのある場所など、個別にドライブなどを行っている。 在宅時の交流が途切れない様に支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	皆で楽しく過ごす時間や気の合う者同士が過ごす場面作りをするなど、職員が調整役を務める様になっている。個別に話を聞いたり、入居者様同士が出来ない事を補い合い、支えあっている姿も見られている。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入院し、サービスの利用が終了しても、お見舞いに行き顔を見せに行っていた。また、家族の方とお会いした時には、情報を交換させて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	会社独自の基本情報でアセスメントを行い、一人一人の思いやグループホームでの暮らし方の希望、意向の把握を行っている。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居される前に面談やケアマネージャーから情報を頂き、本人、家族への確認、了解の得て、生活状況の把握に努めている。		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	個別の日々の記録の中から、生活の様子を詳細に記録し、アセスメントを行うことによって、総合的に把握し、統一したケアを行うように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人、家族の意見を汲み取り、介護計画を作成している。	○	今後は、職員も意見やアイデアを出し合い、介護計画を作成していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>37 ○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>基本的には、3か月毎に介護計画の見直しを行っているが、入居者様の状況、状態に応じた見直しを、本人、家族とともに話し合いを行っている。</p>		
<p>38 ○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の様子、排泄、食事量、血圧など健康状態などの個人の状況、状態がわかるシート、介護記録を用意し、個人の状態を記録している。職員は、それをもとに情報の共有化を図り、実践している。また、職員間の連絡ノートも活用している。</p>	○	<p>まだ、連絡ノートについて徹底されていない所があり、今後は、改善をしていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多 機能性を活かした柔軟な支 援をしている。	入居者様、家族がどんな事 でも相談や意見を言える雰 囲気を作る様に、管理者、 職員が心がけて、ユニット 内で出来る最大限の支援を 行っている。 往診、理美容などを活か した支援を行い、家族の対 応が出来ない時には、管 理者が病院受診を行って いる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に 応じて、民生委員やボラン ティア、警察、消防、文化 ・教育機関等と協力しな がら支援している。	月1回のボランティアによ る、折り紙教室を利用し ながら、支援を行って いる。		
41 ○他のサービスの活用 支援 本人の意向や必要性に 応じて、地域の他のケア マネジャーやサービス事 業者と話し合い、他のサ ービスを利用する為の支 援をしている。	現状では、行っていない。	○	今後、検討する必要性 がある。
42 ○地域包括支援センター との協働 本人の意向や必要性に 応じて、権利擁護や総合 的かつ長期的なケアマネ ジメント等について、地 域包括支援センターと 協働している。	毎回、運営推進鍵に参 加して頂き、連携を図 るとともに、様々な助 言を頂いている。		
43 ○かかりつけ医の受診 支援 本人及び家族等の希望 を大切に、納得が得られ たかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適 切な医療を受けられる よう支援をしている。	定期受診時には、必ず 職員が同行するか、家 族が同行して、日常の 変化や気になる点など を報告し、健康管理を 行っている。		
44 ○認知症の専門医等の 受診支援 専門医等認知症に詳しい 医師と関係を築きなが ら、職員が相談したり、 利用者が認知症に関 する診断や治療を受け られるよう支援して いる。	専門医による診断、治 療を受けている。 症状に変化が見られ た場合など、気軽に 医師に相談し、支援 を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護師の確保は出来ていないが、同一敷地内にある、他のサービスから緊急時には来てもらい、健康管理を行っている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	定期的にお見舞いに行き、顔を見せ安心して頂いている。情報交換や相談に努め、入院時の状態や退院に向けての連携が整っている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化の在り方についての方針については、指針を作成し、連携が整っている。	○	重度化、終末期について、職員の一部で理解されていないため、個別に説明し、理解を深めていく必要がある。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	現在まで看取りの希望をされていた方はいたが、設備等の問題で実現が出来ていない。		
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	入居様が施設へ移っても、これまでと同じく、そこで日々の生活が送れるように、ここでの生活の様子を情報交換をしていた。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	入居様の個々に対してのプライバシーを損ねない様に配慮した声掛けを行っている。また、入居様、一人一人に合わせた声掛けを行い、その時の状況、状態にあった声掛けを行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	入居者様の意見を尊重し、本人に合わせた言葉で、ゆくりとした対応で、自分自身で決定できる支援をしている。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者様のペースを優先に考え、支援はしているが、その時の状況により、職員の都合で動いている場合もあるため、入居者様一人一人に合わせたペースを守る事が出来る様に、努力する必要がある。	○	希望に添える様に、支援をしていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	身だしなみや、おしゃれにも、その人らしさが出る様に支援している。理美容に関して、本人が希望している場合は、希望する店に行ける支援を行っている。		
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者様の好みを取り入れ、献立をたてている。また、誕生日など、本人の好きな物を献立にしている。食事、準備、片付けもその人が出来る事を見つけ、一緒に行い、会話を楽しみながら食事時間を過ごせる様にしている。		
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	飲酒、煙草の希望者は現在はいない。好みのおやつを取り入れ、個々に合わせた量で提供し、調整している。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄パターンを記録し、本人の様子を伺いながら、声掛け、促し、誘導を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	希望に沿って入浴は行っているが、希望者がいない時には、職員の声掛けで入浴している時がある。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	本人の生活リズムが乱れない様に声掛けを行っている。また、その時の状況により、休息の声掛けを行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	食器拭き、拭き掃除などは、当番制で行っている。調理の手伝い、洗濯物たたみは、出来る人には、行ってもらい、職員も感謝の言葉をその都度言っている。歌詞本や本などフロアに置き、入居者が自由に楽しめるよう支援をしている。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	入居者様全員が、事務所で預かる事で対応している。金銭管理の出来る方は、財布の中にお金があり、管理を自分でやっている。		
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	月2回ユニット行事で外出を行っている。また、天候の良い日には散歩、ドライブと個別ではあるが行っている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	外出の際は、職員が行きたい所の希望を聞き、実現出来る様に努めている。家族とともに外出される機会もある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話もかかって来たり、手紙が来たりのやりとりは行っており、グループホームより年賀状を入居者様一人一人に書いて頂き、家族へ郵送している。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族が訪問時、本人の居室や食堂、好きな場所で談話をしてもらっている。また、月に1度家族へ近況を話した手紙を送って関係を密にしている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	理念に基づき身体拘束は行っていない。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	防犯のために外からは1日を通して入れない、ユニットのインターホンで鍵を開ける仕組みになっている。外出の察知については、1階にあるチャイムで知る事が出来る。家族にも同意を得ている。		
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員が、入居者様の様子を把握できるように、ちょっとした事でも見逃さず、申し送り等で情報を共通し、安全に配慮している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	一人一人の能力を把握し、状況に応じて対応している。縫い針、ハサミなどを使用される場合は十分に注意し、見守りを行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	職員が中心となって、他の職員と意見交換を行いながら事故防止のために注意をしている。避難訓練に関しても、年2回行い、防災意識を持つようになっている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	管理者が、応急手当の研修に参加し、他の職員に教えている。	○	今後は、研修などに参加していきたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回、施設全体で消防署の協力を得て避難訓練を実施している。その都度、状況を変更し、災害に対応できるようにしている。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	入居者様に起こり得るリスクについて、家族に説明を行い、生活を大切にしながら対応を検討している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日常の状態を会話や表情から様子観察を行い、異常を感じた場合は早急にバイタル確認を行い、状況に応じ往診医、医療機関に相談、報告を行っている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	入居者様の服薬の内容、作用、副作用を把握し、症状に異常が見られた場合は医療機関に連絡をとる様にしています。入居者様の薬は、職員が管理し、必要に応じて服薬介助、見守りを徹底しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かさず働きかけに取り組んでいる。	毎日の排便状況を確認し、その都度、食事、薬の量の調整を行っています。また、便秘がちの方、下剤を服用している方、水分量の少ない方には、個別に水分量の観察、把握を行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎日、食後に口腔ケアを行い、定期的な訪問歯科を受け、丁寧な口腔ケア、嚥下状態の低下防止、改善に取り組んでいる。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	入居者様と食事を一緒に摂りながら、食事状況、状態の観察、把握を行い、状況によっては声掛け、一部介助を行っている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルを用意し、実行している。外出後には、手洗い、うがいの徹底、手指の消毒を行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	毎日、調理器具の消毒、漂泊を行い衛生管理を徹底して行っている。食品の期限についての確認も行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関周辺は、駐車場に面しているため、親しみやすい環境ではないが、周囲を綺麗にし、安心して出入りできるように心がけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有の空間は、季節に応じた装飾を工夫し、季節の変わる目を入居者様に感じて頂ける様にしている。		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食卓テーブルの席の配置やリビングの配置に工夫し、自分の空間が作れるように配慮をしている。		
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	今まで自宅で使用していた物、馴染みのある物を持ってきていただき、子族と、本人が相談しながら、配置を工夫している。		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	毎日、居室の清掃、換気を行い、入居者様に合わせた温度、湿度調整を行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下などの要所に手すりを設置している。入浴時には、安全に入浴ができるために、簡易手すりを付けている。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	居室、トイレには目印があり、見てわかる様になっているが、判断が難しい入居者様には、声掛けを行い、誘導している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている。	玄関の目の前が駐車場のため、建物の裏の花壇で花や作物を作り、水撒きや草取 りを行い、外気浴を行っている。	○	玄関前にて、外気浴を楽しめる様なスペースを使っていきたい。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない	3
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	2
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	1
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	2
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	2
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	1
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	1
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない	3
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない	2

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果		
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない	1
98	職員は、生き生きと働いている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない	1
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	1
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない	2

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)